

目次

第一章	はじめに——何を語ろうとしているのか……………	1
	論理の役割 13 / アリストテレスの謎 16	
第二章	古代人がとり憑かれたもの……………	19
	巨石△天文台▽ 21 / 不用の用 26	
第三章	ギリシア人は問う……………	28
	アナクシマンドロス 29 / ヘラクレイトスとパルメニデス 32 / ギリシ ア人の原子 37 / プラトン 40	
第四章	ニュートンは答える……………	44
	天空における運動 45 / アイザック・ニュートン 48 / プリンキピア / プリンキピアにおける時間 52 / 時空間——一体化した時間と空間 55 / 時間を超越して考察した時間 59 / ニュートン力学の時間 62	
第五章	時計とはなにか……………	66
	時計が測るもの 70 / よい時計と悪い時計 73 / 時計と意識 77	
第六章	可逆運動のパラドックス……………	81
	物質の諸理論 82 / 気体の物理像 84 / エネルギイの概念 85 / 時間に 逆行する運動 88 / エントロピーの概念 90 / マックスウェルの魔物 92 / 百個の分子を含む系 94 / ものごとの原因 97	
第七章	過去の感覚と未来の感覚……………	102
	尺度の問題 104 / 原因と結果 106 / 前兆と記録 108	
第八章	宇宙を推測する……………	112
	モデルの効用 114 / 神話とモデル 116 / 銀河の発見 120	
第九章	変転する宇宙のモデル……………	126
	宇宙は動く 127 / 曲がった空間 132 / 正準モデル 137 / 知識の特質 141 / 宇宙像の一致 144 / 不可逆性の起原 148 / 分子的な秩序と混沌 149 / 時 間の終わり 154	
第十章	そこで結局何が言えるのか……………	160
	二種類の時間 163 / 再びプラトンに戻る 164 / プラトンの計画を完成す る 169 / 二種類の時間を結ぶ 172 / 再び時間とは何か 180 / 統合を行な う 181	

訳者あとがき……………191

付録一 マックスウェルの魔物にふしぎはない……………巻末 1
付録二 相対性理論の時空……………巻末 3
付録三 マッハの原理と宇宙定数……………巻末 10
付録四 宇宙学入門……………巻末 13
参 考 文 献……………巻末 20

本文の注で(訳注)とあるもの以外はすべて原注。なお、文献とあ
るのは巻末参考文献(巻末20ページ)を参照。